



2024年度環境経営レポート

対象期間：2024(令和6年)4月～2025年(令和7年)3月

2025年(令和7年)12月12日発行

株式会社アキュレイト Accurate Inc.

埼玉県越谷市下間久里 92-1

目次

1. 環境経営方針	p.2
2. 事業活動の概要	p.3
1) 本社	
2) 事業所	
3) 環境管理責任者	
4) 事業内容	
5) 事業規模	
6) 環境経営体系図	
7) 役割・責任・権限	
3. 環境経営目標	p.5
直近の事業年度の実績と中期目標	
4. 主要な環境経営計画	p.6
1) 温室効果ガス排出量の削減	
2) リサイクルの推進	
3) 省資源の推進	
4) 有害化学物質の管理	
5) その他、継続取組	
5. 環境経営活動の取り組み結果の評価	p.8
1) 目標に対する結果	
2) 温室効果ガス排出量の推移	
3) 廃棄物など排出量の削減	
4) その他省資源の推進	
5) 有害化学物質の管理	
6) その他取り組み	
6. 環境関連法規の違反・訴訟の有無等	p.18
7. 代表者による評価と見直し指示	p.19

1.環境経営方針

株式会社アキュレイト 環境経営方針

【基本方針】

株式会社アキュレイトは全事業所の全活動（機械部品の供給に関わる設計製造・技術提案・出荷梱包など）を対象に環境経営システムを構築、運営管理し、低炭素・循環型社会の発展に寄与すべく積極的に責任と役割を果たしていきます。従業員の健康かつ安全な生活の実現を図り、その地域社会の継続的な発展に貢献いたします。

【行動指針】

1. 事業活動を行うにあたり、地域社会および自然生態系に配慮し、環境保全に努めます。
2. 環境関連の法規制を遵守するとともに、遵守状況を定期的に確認・評価します。
3. 環境負荷削減の目標を定め、継続的な改善活動を行います。
特に下記を重点項目として取り組みます。
 - a).電力および化石燃料の使用量削減
 - b).廃棄物の削減、リサイクル化の推進
 - c).上記 a),b)を記録、評価し改善活動に生かす
4. 地球環境に配慮した設計開発と製品製造および技術提案を行います。
5. 取り扱い製品に含有される化学物質を管理し適用基準を定め、環境負荷低減を図ります。
6. 本方針を全従業員が理解し目標達成に向けて活動出来るよう周知いたします。
7. これらの活動は環境マネジメントシステム（以下 EMS）「エコアクション21」により策定・評価し専門機関の定期審査を受けます。EMS への取り組みの教育・訓練を行います。
8. 活動報告を月例会議で報告するとともに社内ポータルに掲示。全従業員と情報を共有、また意見の交換・吸い上げを行います。
9. 活動レポートはホームページに掲載、社外に広く自由に閲覧出来る事とします。

制定 2006年(平成18年)7月1日

改定 2020年(令和2年)4月1日

株式会社アキュレイト
代表取締役 土屋 一延

2. 事業活動の概要

1) 本社

〒343-0045 埼玉県越谷市下間久里 92-1

代表取締役 土屋一延

2) 事業所

ロジスティクスセンター

〒343-0045 埼玉県越谷市下間久里 92-1

東京カスタマーセンター（東京 CC）

〒101-0021 東京都千代田区外神田 4-7-5

名古屋カスタマーセンター（名古屋 CC）

〒453-0814 名古屋市中村区熊野町 1-9-1

京都カスタマーセンター（京都 CC）

〒612-8419 京都市伏見区竹田北三ツ杭町 20

*CC（カスタマーセンターの略）



3) 環境管理責任者

責任者名 品質保証部 阿部 敏

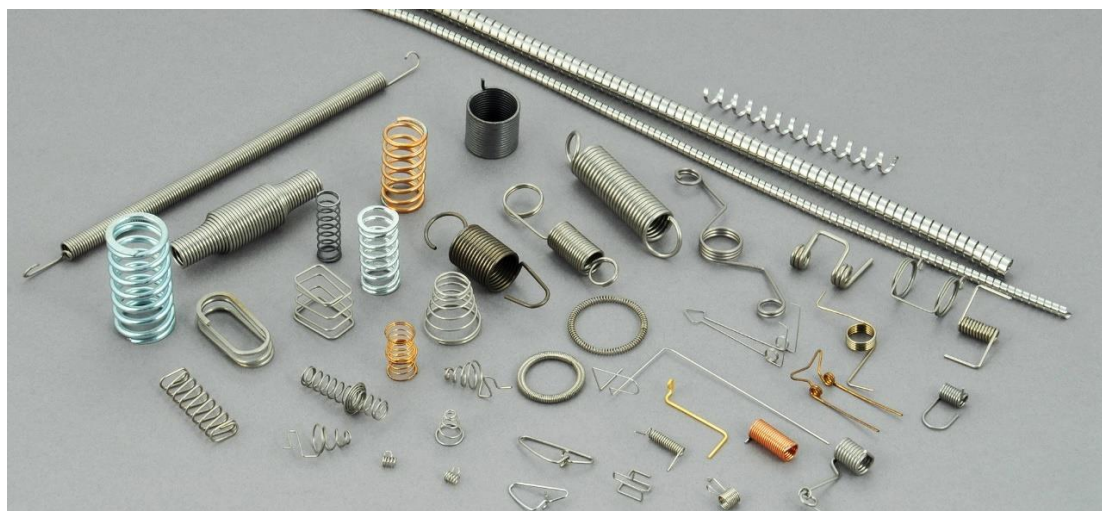
連絡先 TEL : 048-973-1511 e-mail : HINSHO@accurate.jp

4) 事業内容

規格ばね及び機械要素部品のファブレス製造販売。

各種精密スプリングの設計、試作品および量産品のファブレス製造販売。

センサーの販売



5) 事業規模 (年度：4月～3月)

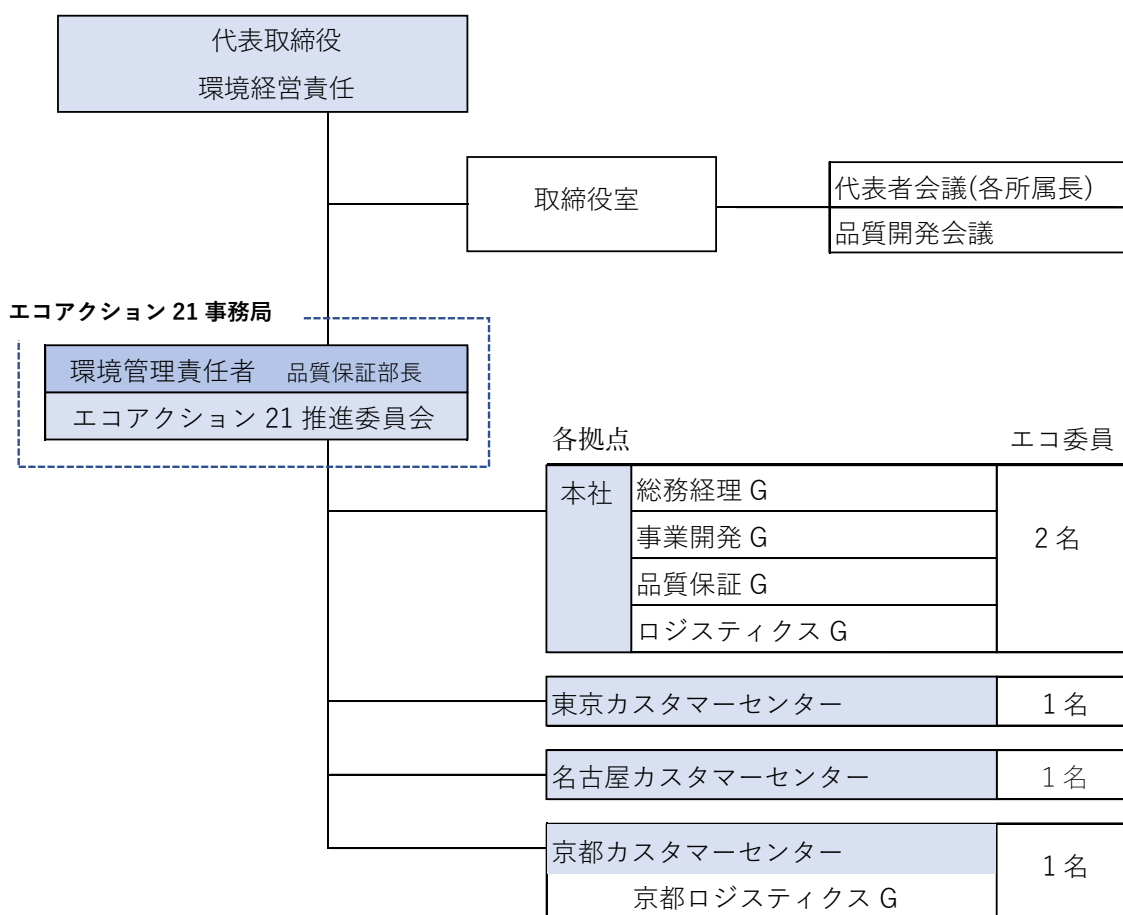
年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
従業員数 (名)	37	37	37	38	40	38
延床面積 (m ²)	1,430.86	1,430.86	1,430.86	1,430.86	1,430.86	1,430.86

*従業員数(社長・役員・派遣社員含む)および延床面積は各年度4月1日時点のもの。

6) 環境経営体系図

全事業所を登録範囲とし、登録内容は事業内容とする。

全38名 2024年4月1日



7) 役割・責任・権限

職責	役割と責任・権限
代表者(代表取締役社長)	<ul style="list-style-type: none"> 経営における課題とチャンスを確認にする 環境管理責任者を任命 環境経営方針を決定する 環境目標・環境活動計画を承認 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、情報等経営資源を準備 システムの評価と見直しを行い、環境管理責任者に指示 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営目標及び環境経営計画の策定 代表者への取組報告。 環境経営システム運用の実態把握と評価、見直しの実施。 環境活動の随時評価と取り組み支援を行う。 環境関連における外部コミュニケーション窓口の責任者。 エコアクション 21 推進委員会の運営責任者
エコアクション 21 推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの運用を推進。 環境活動の記録集計。使用量・排出量の把握と周知。 是正・予防措置の検討と立案。即時可能なものは実施。 環境関連法令・条例の管理。 環境関連の外部コミュニケーション窓口 環境経営レポートの作成、公開(地域事務局への送付とホームページの掲載) 従業員に対して環境教育・訓練の実施
各所長	<ul style="list-style-type: none"> 各カスタマーセンターにおける環境活動計画の周知 各カスタマーセンターに関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 各カスタマーセンターにて、地震・火災を想定した訓練を実施 各カスタマーセンターの問題点の発見、是正、予防措置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 自主的・積極的に環境活動へ参加する。

3. 環境経営目標 (直近事業年度の実績と中期目標)

目標項目		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度		2025 年度
		実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	目標値
温室効果ガス	(kg-CO ₂)	54,305.	46,118.	44,940.	43,700.* ¹	44,576.	43,700.
排出量	前年比	+1.5%	-15.1%	-2.6%		-0.8%	
電力使用量	(kWh)	102,084.	99,880.	92,807.	100,000.	93,072	100,000.
	前年比	+1.5%	-2.2%	-7.1%		+0.3%	
ガソリン使用量	(ℓ)	855.	1,266.	1,960.	1,800.* ¹	1767.	1,800.
	前年比	+3.3%	+48.1%	+54.8%		-9.8%	
一般廃棄物	(kg)	1,917.	2,002.	1,565.	2,100.	1,283.	2,100.
排出量	前年比	-20.2%	+4.4%	-21.8%		-18.0%	
リサイクル量	(kg)	2,325.	2,673.	3,402.	3,380.	2,544	3,380.
	前年比	-52.1%	+15%	+27.3%		-25.2%	
産業廃棄物	(kg)	—	—	1,108	—	681	—
	前年比	—	—	—		-38.5%	
水道使用量	(m ³)	522.	555.	488.	450.	378.	450.
	前年比	+7.9%	+6.3%	-12%		-22.5%	

※目標対比、目標に対する結果は、P8、5.1)に記載。

*1 ガソリン使用量と CO₂排出量の中期目標を上方修正。詳細は P11 に記載。

1) 2023 年度からの中期目標

(a) 温室効果ガス排出量（電力使用量）

電力の排出係数について、これまで 2018 年度の調整排出係数を基に算出していたが、2022 年度から改め、環境省・経済産業省 2022(令和 4)年 2 月 17 日公表の係数を拠点毎に採用することになっている。

排出量目標を以下の通り二つの年度の実績に対して、新たな排出係数で算出した排出量を基に定めた。

1) 2021 年度排出量

54,305 kg-CO₂ → 新排出係数での値 **44,596 kg-CO₂**

2) 2019 年度排出量

46,090 kg-CO₂ → 新排出係数での値 **40,017 kg-CO₂**

*2021 年度は通してコロナ下の臨時体制を敷いていたという事と、コロナ前はどうかであったかで、この二つの期間とした。

その上で、2023 年度からロジスティクスセンターに導入した設備稼働による電力消費の増加を見込み、一旦は 43,000 kg-CO₂を 2026 年度までの中期目標としたが、その後、**中期目標を 2024 年度から 43,700 kg-CO₂へ上方修正**。（修正の詳細は p.11 に記載）

*2024 年度より 43,000 kg-CO₂ から 43,700 kg-CO₂ に修正

(b) その他使用資源および排出量の目標

当社における温室効果ガスの排出量は、電力消費によるものが 9 割以上を占める故、電力使用量も目標設定し、月次集計結果を社内に公表、共有している。

電力使用量の中期目標（目標値）は P5 表「環境経営目標値」を参照。

4. 主要な環境経営計画

1) 温室効果ガス排出量の削減

(a) 電力使用量の削減

- ・昼休みの消灯及び定時以降は同室内で不在のエリアを消灯
- ・間引き消灯。一部照明の蛍光灯・電球を取り外し
- ・LED に入れ替え。本社・ロジスティクスセンターは 2013 年に設置済み
- ・パソコンの省電力設定
- ・「クールビズ」「ウォームビズ」の推奨
- ・冷暖房の温度設定は夏期 28°C、冬期 20°Cを目標とする。サーキュレーターを活用し、効率を高める。

(b) ガソリン給油量の削減

- ・使用状況の把握と共有

*社用車日報の義務づけ。走行距離と給油の有無・量を記録。

- ・公共交通機関使用を推進
- ・アイドリングストップ、省エネ運転の奨励
- ・オンライン商談の推進

(c) その他化石燃料の削減

- ・ガス、灯油の使用量の把握と共有。

2) リサイクルの推進

(a) コピー用紙のリサイクル

(b) リサイクル資源の分別廃棄

- ・主に古紙(段ボール・OA 用紙)、ペットボトル、金属。

3) 省資源の推進

(a) 水道使用量の把握と共有

(b) 通い箱の推奨

4) 有害化学物質の管理

(a) グリーン調達推進

- ・SDS および chemSHERPA フォーマットによる調達品の化学物質含有量の把握。
- ・自社製品に RoHS 適合マーク標記
- ・事務用品、消耗品などグリーン製品採用の奨励

(b) 有害化学物質の調査

- ・ファブレス製造先（協力会社）の調達品と使用状況の把握。使用禁止物質、制限物質が守られているか確認。
- ・顧客から化学物質含有調査依頼への調査回答。

5) その他、継続取組

(a) フロン排出抑制法に基づく空調設備点検

- ・空調機器の自主簡易点検を四半期毎に実施。対象は点検記録に基づく。

(b) 防災訓練

- ・起こりうる災害を想定した訓練。2024年11月に消火設備の体験を実施（詳細 P16 記載）。

(c) オンラインサービス、ばねの設計および選定サイト「選ばね君」の利用増加を図る。

- ・リスティング広告によりアクセス件数を高め、月次毎に集計分析し随時見直していく。

5. 環境経営活動の取り組み結果の評価

1) 目標に対する結果

		2023年度	2024年度					
	単位	実績	目標	実績	目標対比	前年実績対比	評価	
温室効果ガス排出量	kg-CO ₂	44,940.	43,700.	44,576.	+2.0%	-0.8%	△	
エネルギー資源使用量								
電力使用量	kWh	92,807.	100,000.	93,072.	-6.9%	+0.3%	○	
ガス使用量	m ³	18.	—	12.	—	-33.3%	—	
灯油購入量	ℓ	522.	—	540.2	—	+3.5%	—	
ガソリン給油量	ℓ	1,960.	1,500.	1,960.	-1.8%	-9.8%	○	
一般廃棄物排出量	kg	1,565.	2,100.	1,283.	-38.9%	-18.0%	○	
リサイクル量	kg	3,402.	3,380.	2,544.	-28.0%	-25.2%	○	
水道使用量	m ³	488.	450.	378.	-16.0%	-22.5%	○	

*評価基準は以下の通り

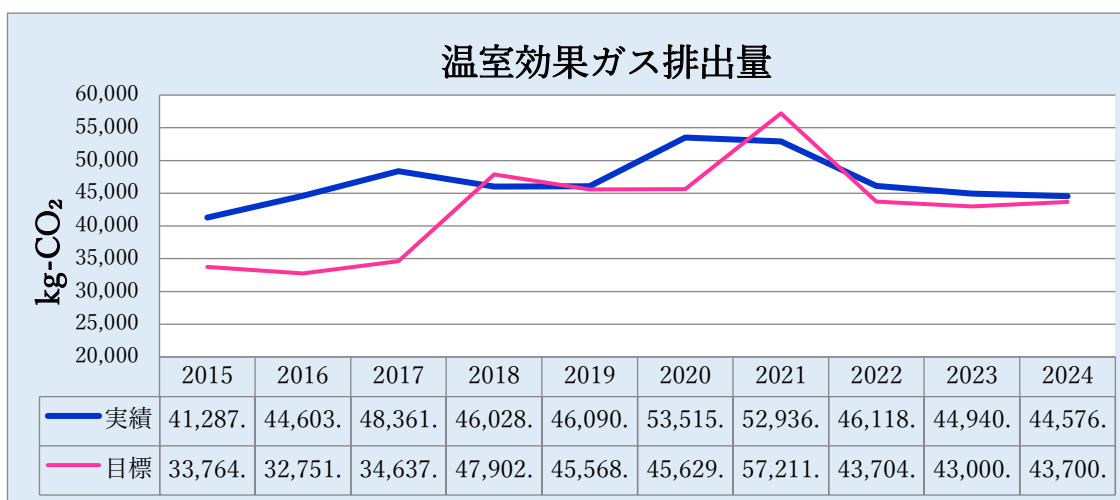
○：目標を達成した

△：未達成の割合が5%未満の場合。もしくは努力の範囲を超える事態が起き未達となった場合。

×：未達成の割合が5%以上の場合

*ガスと灯油は使用頻度が低く目標値を設定していない。

2) 温室効果ガス排出量の推移

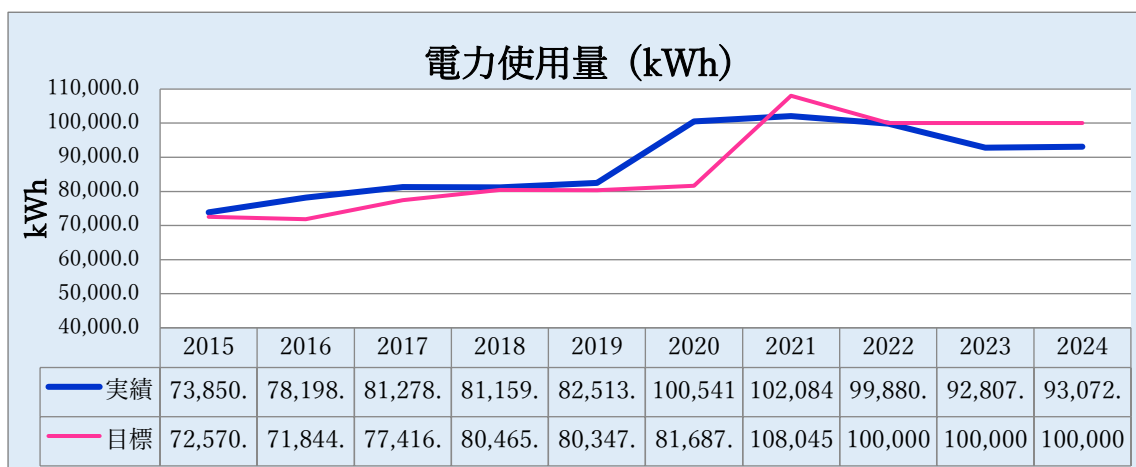


- P6、目標設定の1) -(a)項で述べた通り 2022年度より排出係数を改める。尚この値は環境省・経済産業省が2022年(令和4年)2月17日に公表した修正後の係数です。(次表)

(排出係数)	2021年まで	2022年より
東京電力エナジーパートナー	0.500	0.443
中部電力ミライズ	0.485	0.379
関西電力	0.509	0.351

- 2024 年度の温室効果ガス排出量は、目標対比が+2.0%と上回った〔p8,5.1〕表参照〕。これは2023 年度同様にコロナによる自粛後の活動が、想定した目標以上であったことが挙げられる。一方で前年実績対比については-0.8%と下回っている。

(a) 電力使用量の削減



- 2024 年度は目標を下回ることが出来た。
- 2023 年度の取り組みとして、常時人が居ない部屋の空調を自動制御・遠隔操作する仕組み(スマートスイッチ)を導入した。これにより消し忘れや過剰な温度調節を抑制する。



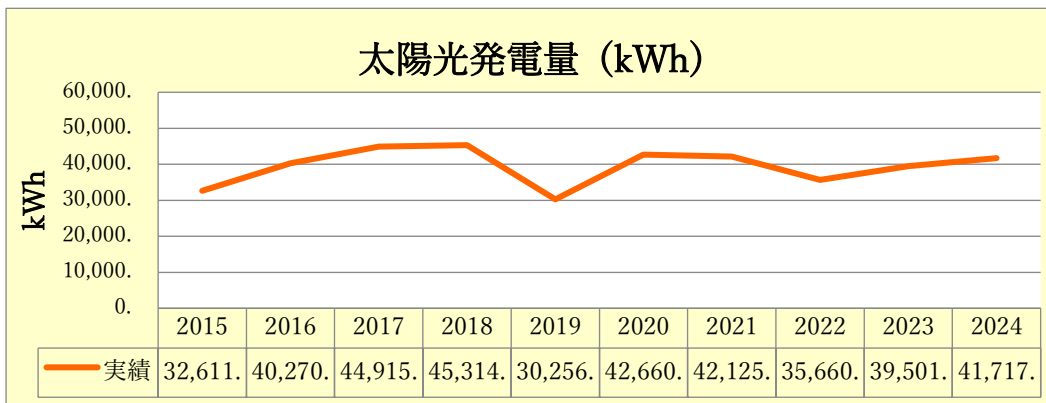
- 当社は電気使用量が CO₂ 排出量の大部分を占めており、それ故使用エネルギーの内、電力については削減目標を定めている。今期も引き続き使用量を月次集計し、各拠点各スタッフに開示。削減意識を促します。
- 2013 年 10 月 本部・ロジスティクスセンターの移転に伴い、建物の屋上に太陽光パネルを設置。発電を行い電力会社へ売電している。この発電量は、上記の温室効果ガス排出量及び電力使用量には算入していない。



太陽光パネル

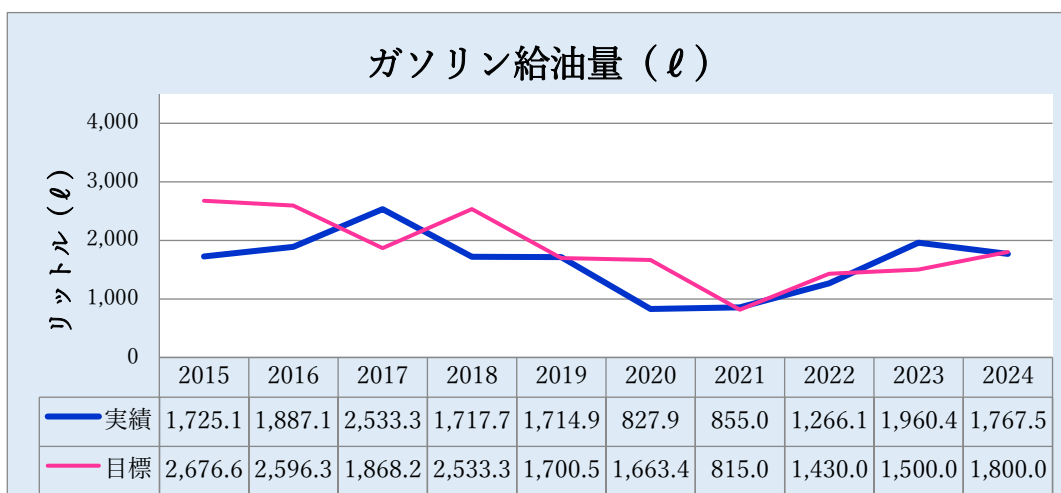
*google map より引用

(b) 太陽光発電 発電量の推移



- ・ 発電開始は 2013 年 10 月から。2025 年 3 月現在で 11 年 6 カ月経過。
- ・ 2019 年 7~10 月にパワーコンディショナーに異常有りこの期間で発電量が低下した。
- ・ 2024 年 3 月時点で、発電設備に顕著な経年劣化は見受けられない。
- ・ 2023 年 5 月メンテを実施。

(c) ガソリン給油量の削減



- 営業車全車両、低排出ガス車に入れ替え済み。所有台数は4台。
 本社ロジスティクスセンター 1台
 名古屋 CC 1台
 京都 CC 2台
- 長距離移動を必要とする場合には、鉄道+レンタカーの移動を奨励している。
- 2020年度から2022年度にかけて、新型コロナウイルス対策として訪問営業を控えた結果、社用車の利用頻度は激減した。

2023年度は訪問活動再開が見込まれ使用量目標を1,500ℓに設定したが、早期の活動再開ということもあり1,960.4ℓの使用量となった。コロナ前5年間の平均使用量が1,915.6ℓであることから、規制の無い通常活動の使用量としては妥当な範囲と言え、目標設定が低めであったと言える。

一定期間を固定で評価する中期の目標としているが、これらを踏まえ2024年度以降のガソリン使用量目標値は見直す事とした。またそれに伴うCO₂排出量も同様である。

2024年度以降のガソリン使用量の中期目標 1,500 → **1,800 ℓ**

温室効果ガス排出目標の補正 排出係数 2.32 × 増加 300 ℓ = 700 kg-CO₂を加算

これに伴う温室効果ガス排出量の中期目標を 43,000 → **43,700 kg-CO₂**へ上方修正

(d) ガス使用量



2013年の本社移転後は京都CCのみの使用となり、当社のCO₂総排出量に占める割合は僅か。

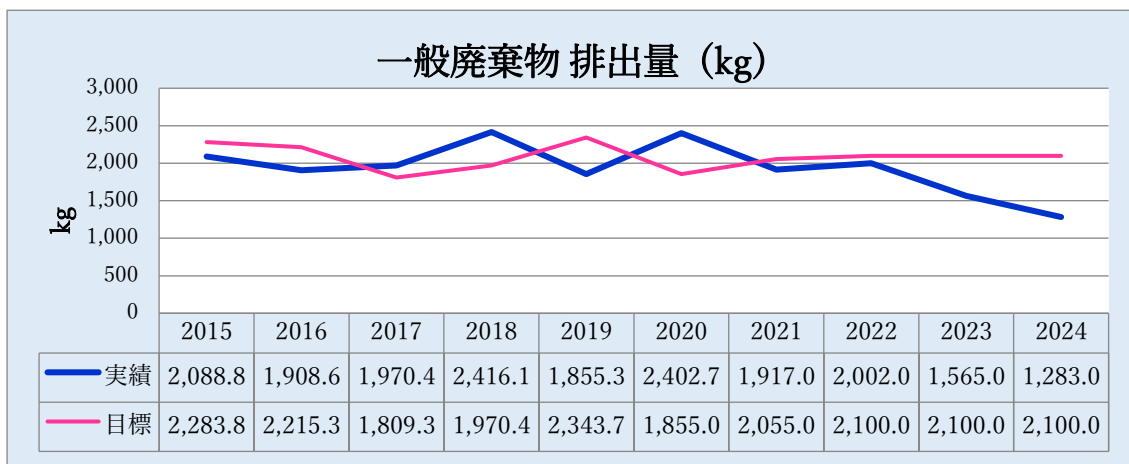
(e) 灯油使用量

暖房器具の燃料として、本社ロジスティクスセンターおよび京都CCの物流倉庫内で冬期に使用している。



3) 廃棄物など排出量の削減

(a) 廃棄物の削減

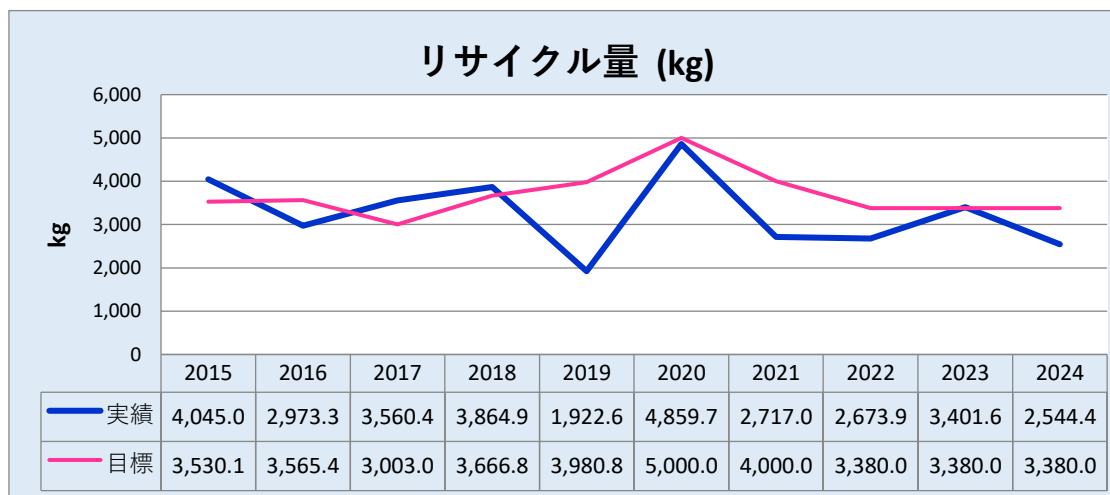


・紙類は新聞紙・段ボール・コピー用紙に分別しリサイクルする事で廃棄物を削減している。

主な増減要因

- ・2018 年度は OA 機器の入れ替えなどにより増加した。
- ・2019 年度は新型コロナウイルス対応により年度末の廃棄を見合わせたため量が減少した。その分翌 2020 年が増加しているが、その後は減少傾向にある。

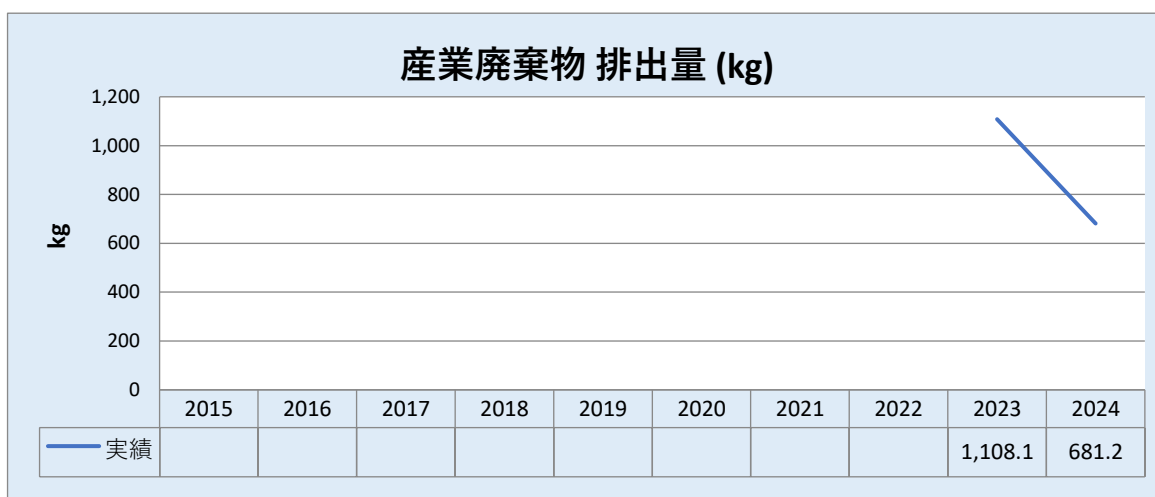
(b) リサイクルの推進



- ・機密文書類は溶解処理業者へ引き渡しリサイクルしている。
- ・2019 年度の減少は新型コロナウイルス対応により年度末の廃棄を見合わせた事による。反面 2020 年度は、その見合わせていた古紙リサイクル量が増加した。

(c) 産業廃棄物

- ・2023 年度より廃プラを産業廃棄物として分別廃棄。
- ・したがってグラフは 2023 年度からの実績のみ。



2024 年度も目標を設定せず、実績把握に努める。

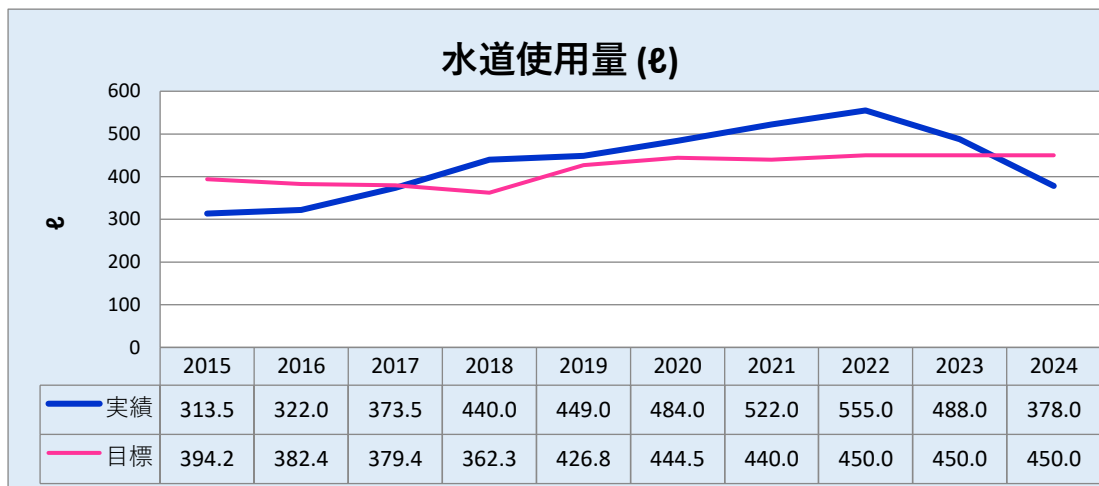
- ・分別開始にあたり従来の排出ゴミと産業廃棄物の集積場所を再構築した。
本社屋内に設置したゴミ集積所（写真左上：分別ストッカ 右下：古紙類と廃プラのフレコンバック）



4) その他の省資源の推進

当社は大規模な設備や重機等を有しておらず、他の資源としては水の使用量を集計管理し削減に取り組んでいる。

(a) 水資源使用量の削減



- ・ 名古屋 CC の水道料金は建物の賃貸借契約に含まれており使用量の把握が出来かねる為、集計から除外している。
- ・ 2023年度は、本社の一部トイレで水漏れがあり、業者を手配しパッキン交換しました。11月18日完了。修繕後、水道の使用量に改善がみられます。

5) 有害化学物質の管理

(a) グリーン調達について

- ・ 当社規格品（カタログ掲載品）は全点 RoHS 指令に対応している。
- ・ RoHS10 物質は原則として含有していないか、含有の場合でも適用除外規定に該当する事を確認している。
- ・ 各協力会社からの調達品は、安全データシート SDS ないし chemSHERPA フォーマットにより含有規制有害物質の管理を行っている。
- ・ 顧客からの化学物質調査依頼に対しては、品質保証部が対応を担っている。

6) その他取り組み

(a) 屋外の清掃

周囲の景観美化と草の侵入によるエアコン室外機の故障防止の為、定期的を実施している。

実施前



実施後



景観の維持・回復と地域貢献として、建屋に面した歩道の除草作業を実施。

(2023年8月完了)

今後も継続して取り組む。



(b) クールビス、ポロシャツの支給

季節限定のユニフォームとして、ポロシャツを支給し軽装を推奨している。



(c) ウォームビス、フリースジャンパーの支給

防寒用作業着として、フリースジャンパーを支給し、暖房の目標設定温度より(-1°C)を推奨している。

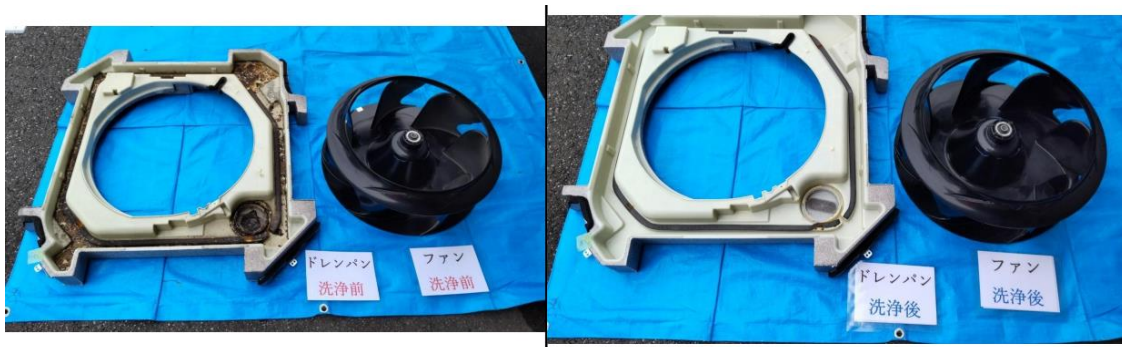


(d) エアコンの自主簡易点検

- 2019年度よりフロンガス排出抑制法に基づき、四半期単位でエアコンの自主簡易点検を実施している。
- 2022年度はこの自主点検において、室外機から屋内へ繋ぐホース類の樹脂カバーが剥がれむき出しの状態が発見されましたので修繕しました。
(2023年3月京都カスタマーセンターにて。下写真は修繕後のみ。)



- また本社・ロジG のエアコンを専門業者によりクリーニング清掃致しました。(写真：2022年10月15日実施) 空調効率がUPし、より省エネ稼働させています。



▼洗浄前と洗浄後の風速測定。 26→44にUP。



- 2023年度は四半期毎の自主点検を実施し、不具合等はありませんでした。

(e) 防災訓練の実施

- 消防用設備点検を行いました。

当社各拠点の事業規模から消火設備は本社のみであり、消防法に則り点検を実施しその結果を消防署へ報告致しました。2022年11月7日報告済。

尚、当社はオフィス機能が中心で、火災を除き地震等自然災害以外の緊急事態が想定されません。今後も消火訓練や震災、水害を想定した訓練を行ってまいります。

- 2023年度は消防法に基づく半期毎の設備点検を実施しました。
- 2024年11月6日に本社に於いて、消火設備の訓練として体験会を開催しました。

(写真は当日の様子)



(f) WEBサイト、ECサイトを活用し省資源な運営を実現

WEB上で製品設計から見積もり発注まで完結する特注ばね自動見積サイト「選ばね君」を開発し公開。ペーパーレスの受発注を実現し、利用者は就業時間の枠に縛られることなく24時間いつでも見積もり発注可能です。

特注ばねの自動見積サイト <https://accurate.co.jp/>

特注ばねインターネット自動見積システム

選ばね君

- 仕様ばね及び円環ばねの設計から見積もり、発注まで自動で行います。(外径2mmから最大50mmまで)
- 本システムは、PC用ブラウザすべてのブラウザ (IEは8以上) で動作可能です。(JavaScriptのOFFの場合は動作不可)

accurate

1.材料選択 2.外径指定 3.線径指定 4.自由長さ 5.弾性係数 6.有効巻数 7.設置指定 8.完了

引張ばね

コイル外径 (φmm) 27mm

コイル平均径

最大荷重時長さ (mm)

常用長さ (mm)

自由長さ (mm)

材料を選択してください。

SUS304WPB (ばね用ステンレス鋼線)
 ステンレス鋼線の中で最も幅広く使用されている、ばね用材料です。特徴は「錆に強い」、「疲労強度 (疲労に耐える能力) が優れています」など、電気・電子機器向けの構造ばねなどに採用されています。

SWP-B (ピアノ線鋼線)
 SWPはピアノ線とよばれる材料です。ばね性に優れ、両サイズで比較するとステンレス鋼線よりも高荷重・高耐久です。炭素鋼に分類され、材質は「鉄」で指定された場合、多くはピアノ線で製作されています。錆やすいでの、避けてください。

中止する 次へ進む

1.材料選択 2.外径指定 3.線径指定 4.自由長さ 5.弾性係数 6.完了

引張ばね

品名 SUS 60-70-0096-N23.5-LF27.2

種類	SUS304WPB	ばね定数	k	0.5889	N/mm
線径	φ 2.70	mm		0.0621	kgf/mm
外径	φ 27	mm	高さ H		mm
コイル平均径	D 23.5	mm	高さ P		mm
内径	I.D. 4.6	mm	高さ HMIN	42	mm
巻数	N 23.5	巻	高さ HMAX	42	mm
巻方向	N	右巻	最大伸	10.8338	%
自由長さ	LF 27.2	mm	強度 Pmax	1.1049	kgf
フック形状	直丸フック		引張耐力力 P	2.12	N

品名・数量が決まりました。

品名 引張ばね

数量 SUS 60-70-0096-N23.5-LF27.2

見積り数: 巻

※お見積りや発注の際は、単位が異なります。
 ※数量も変更したいときは、単位で納期が決定します。

中止する 戻る 次へ進む

6. 環境関連法規への違反、訴訟の有無等

環境関連法規への遵守状況は、「主な環境関連法規一覧」にて管理し、毎月開催されるコンプライアンス会議にてチェックを行っています。これまで創業以来過去 40 年間、環境関連法規への違反あるいは訴訟等はありません。また、関係当局より違反等の指摘はありません。

1)環境関連法規等の遵守状況の確認と評価

適用環境関連法規等	関連部署	遵守状況	評価日	評価者
廃棄物処理法	全 CC 対象。内、 産廃は本社ロジ 及び京都 CC	○	2025/12/4	阿部
フロン排出抑制法	本部・ロジ G、 京都 CC、(東京 CC、名古屋 CC は管理物件のため 該当しない)	○	2025/12/4	阿部
家電リサイクル法	全 CC 対象	○	2025/12/4	阿部
消防法	全 CC 対象	○	2025/12/4	阿部
環境関連条例	関連部署	遵守状況	評価日	評価者
越谷市廃棄物の処理及び再利用に関する 条例	本部・ロジステ イクスセンター	○	2025/12/4	阿部
東京都環境確保条例	東京 CC	○	2025/12/4	阿部
東京都廃棄物条例	東京 CC	○	2025/12/4	阿部
名古屋市廃棄物の減量及び適正処理に 関する条例	名古屋 CC	○	2025/12/4	阿部
安心・安全で快適なまちづくりなごや条例	名古屋 CC	○	2025/12/4	阿部
京都市廃棄物の減量及び適正処理に 関する条例	京都 CC	○	2025/12/4	阿部

7. 代表者による全体の評価と見直し・指示

2025年12月12日ヒアリング

事業活動にともなうエネルギー消費およびゴミの排出量について、大きな変化はなく想定される範囲内で推移していると認識した。今後も作業環境を優先させつつ取り組みを行っていく。

また近年、太陽光パネル、電機自動車、電子デバイス等に使用されているレアメタルおよび化学物質による環境破壊が注目されている。当社においては環境法令や化学物質規制に抵触する事例・事案は今のところ無いが、取り巻く環境は日々変化している。常に最新の状況を見極め、仕入先も含めたサプライチェーン全体の現状を把握し適切に取り組む様指示した。

記入：環境管理責任者 阿部

8. 環境経営レポートの次回発行時期

次回の環境経営レポート発行は2026年9月頃の予定です。